

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京 3-128022
 印刷／社会福祉法人 共愛会



絵・中島 英子

「こたつ」

あけまして

おめでと〜ございます

社会福祉法人 光の子どもの家

偉くなりたいと思う者は

(マタイによる福音書 第二十章二十〜二十八節)

理事長 福島 勲

昨年来、朝、気持ちよく覚めて、TVのスイッチを入れると途端に不愉快になる。

贈収賄で逮捕といった事件がひっきりなしに放映される。

重い気持ちになって一日が始まる。腹を立てて聞いていたものが、次第に慣れっこになってしまふ。良心が麻痺させられてしまふのか、いやな現象である。儲けや出世のための賄賂は、今も昔も変わらないようだ。

江戸時代の老中沼意次の賄賂政策は有名なものである。城から帰って自宅の廊下に積み上げられている賄賂の品々を眺めてニンマリとして、一日の疲れをほぐしたという。そして彼の哲学は多額の賄賂まで使って職をうかがい、出世を願う意気込みのある者こそ、用うるに足る者であるという事であった。

更に時代が遡って平家の時代のことである。

大納言実定が、平家の次男坊の宗盛に先を越されて左大将の

地位を得損ねた。

ガックリきた実定は出家しようかとまで考える。時に知恵者の藤藏重兼という男がいて、実定に入知恵をする

清盛の崇拜する安芸の厳島神社に七日間参籠して、左大将にならせたまえと祈願せよ。

その後神宮に仕える者らを京に招いてご馳走するようにと。

清盛はこの参籠とその理由をきいて、「あないとおし、都にも多くの神社があるのに自分の崇拜する厳島に参籠するとは・」と言ってたちまちに宗盛の職を解いて、大納言を据えた。(平家物語)

これも宗教を用いた風変わりな賄賂であろうか。

聖書のこのところは、ヤコブ、ヨハネの兄妹が母親に連れられてイエスの許にきて、やがてイエスの政権の時代がきたら、二人の子どもを左右大臣に取り立てて欲しいと願う話である。

何を賄賂の手土産としてこの

母らは持つてきたか詳かではない。しかし他の弟子らはこのことを聞いて大いに立腹している。

世間によくあることで、子を思う母のひたむきな、しかし行き過ぎた態度は、イエスの弟子たちの母も埒外ではなかった。これに対しイエスのお答えの教え論は、まことに厳しいものである。

たとえ御国で權威の座に座るといふことがあるとしても、それは父なる神のなされることである。地上にあつて偉くなるうと考える者は、まず仕えることを第一とする僕となれと命じられる。

英語の大臣というミニスターは、同時に僕、召使いの意味である。選挙の時だけ公僕を装うて、当選すれば先生に成りすます。

牧師も同じミニスターである。決して仕えられる者、權威者、宴会の上座、会堂の上座を好み、市場で挨拶されることを望む者であつてはならないのである。さて、あなたの新年の抱負やいかにと、問うてみましょうか。

新春の願い

施設長 今関 公雄

新年おめでとうございます。開設九年度目の新春を子どもたち三十名と職員十七名で元気に迎えました。みなさまに感謝をもつてご報告申し上げます。

新年に当たり、賀状をかねて近況と抱負を申し上げます。

まず第一に、子どもたちの成長に目覚ましいものが見られます。その年齢構成も高校生四、中学生六、小学生十九、幼稚園生一となりました。尚、今春の高校受験に一名(男)が臨み、三回目の挑戦となります。

養護施設光の子どもの家は、親の諸事情により共に暮らせなくなった子どもたちの養育に当たります。親が行方不明、離別、病氣、放任、虐待、未成熟などの理由がその主なものです。

従つて、親代わり、家庭代わりの養育が求められます。光の子どもの家では、保母が五名以下の子どもを責任担当して疑似世帯を構成して、一軒あたり十

名の子どもと、保母三名、指導員一名で疑似家族を形成しています。そのグループ編成は、夕割の年齢構成・男女混合・兄弟姉妹は同一世帯とする原則でもあります。原田家・佐藤家・仙道家の三軒それぞれも九年目の歴史を重ねる中で個性(家風)が豊かになってきました。

何よりも、新年度から十年目を迎え、最年長者二名が高三となりよいよ卒業して社会人となります。これは本人たちの社会的自立を意味します。あるものは就職、あるものは進学する

かも知れません。ともあれ新設の光の子どもの家にとつては初めての卒業生であり、今後の歴史を社会で築くことになりま

す。不安と楽しみが交錯しております。ここを出て社会で暮らす子どもたちは、私たち職員よりも実社会での影響が格段に増大することは、いわば必然であります。おそらく読者の皆様との距離が

近くなるのかも知れません。改めてお交わり、お支えをお願い申し上げます。

九十二年秋に日本キリスト教団「北東埼玉伝道所」が栗橋駅の近くに開設されました。これは、私事ではありますが私と地域の信徒によつて創設されたものであります。現在十名前後の礼拝集団ですが、地域教会としての成長を指向しております。

近い将来、施設の子どもたちや職員たちが自転車で汗かく距離に立地する教会を願っております。この地域教会で、地元の人々と施設関係者が共に讃美の歌声を上げ、聖書のみ言葉に耳を傾けるのであります。結果的に、相互交流が図られ、共に育ち合うことが期待されます。このことは施設の子どもたち、職員も又地域住民として生活し育つことを意味します。あわせて、地域社会の人々も施設を地域の仲間として受容することになります。これらは私の新春の願いでもあります。

エッセイ

手帳

中島 陸雄 (県立高校教諭)

昨年十一月末に、私は手帳をなくしてしまった。大事な手帳であった。一年間使い続けた愛着は、大変なものだったのである。

日曜日に千葉県の市川市で叔母の法事があつたのだが、時間的にゆとりを持って出かけたつもりであった。しかし、一カ所曲がり角を間違えたために、完全に道に迷ってしまった。そこで仕方なしに市川駅に近くの電話ボックスからお寺に道を問い合わせてみたりして、大慌てでお寺にかけ込むという始末であった。最初からまずい出発となつたわけである。しかし、何とか法事の方は済んで、六時半頃には家に帰れた。

礼服を着替えている時になつて私は手帳がないのに気付いたのである。「手帳をなくしちゃった!」私は家内にそう言った。「どこで?」「市川駅に近くの電話ボックス。気をつけなきゃ

あと置いて置いて来ちゃったんだ。もう、絶対ないよ。」

私はひどくがっかりした表情をしていたらしい。家内は、もう一度その電話ボックスまで行ってみましょうと言った。しかし、それは無駄な事だと判っている。「でも、もしかして有るかもしれないし、なかったとしても気が済むんじゃない?。」

と彼女は私を励ます様に言った。それはそうかもしれないと私も思った。でも、夕食をとつてすぐ出かけたとして七時半スタート、家に帰るのは十一時を過ぎるかもしれない。それに、もう既に私は相当に疲れている。そんな状態の中で、九分九厘見つかからないと判っているのに、残りの一厘の可能性と、自分を納得させるだけの為に敢えて無理をする値打ちがあるのだろうか。第一、私の手帳を発見した人が、そのままあの電話機の上に置いていてくれるか。中味をバラバ

ラとめくつて、何だこんなもの、と言つてどこかに捨ててしまいうぐらいが落ちである。私は諦めようと思つた。でも残念で仕方がなかった。

夕食を済ませてから、家内は早々と支度をしていった。私もそれにうながされて「夜中のドライブのつもりで行つてみるか」と言いながら家を出た。午前中に通つた全く同じコースを、迷つてしまったそのままのコースを又辿つて行くのである。夜は昼間通つた筈の町々が、全然違つた表情を見せていた。

それにしても、私の手帳を拾つた人は、その記録や持ち物から、私をどんな人間と想像するのだろうかと思つた。一冊の手帳を手がかりにして、その所有者のパーソナリティの全てを想像し描き出し得るものだろうか。そんな事を考えた。黒い表紙、最初のページには三種類の銀行口座番号。息子と大家さんと私の座番号。そして学校の時間割表。大学の研究室と電話。教授、助教授の名前。この人大学教授?とは思わないだろうか。期末テスト日程、PTA役員会。

校内実力テスト。などなどやたら書き込んである。

展覧会の搬入搬出反省会。美術の人?・バレンタインデイチョコレート控え。女優さんの角の丸い名刺。俳句が数句。コンサート、演劇の予定。一番後の方には住所録。二枚のお守り札と若い女性の写真。・何だこいつは?きつとそう思うに違いない。

私たちはほとんど走つて九時頃例の電話ボックスに着いた。案の定手帳はなかった。ボックスの回りも良く調べてみた。行き来する車のヘッドライトで道端も明るい。しかし、手帳は発見できなかった。

翌日私は、職場でこの話を出してみた。「市川の警察に電話してみたらどうかしら」と言われた。私にもこれは思いつかなかつた。無駄な事さと思つた。そして何の期待も持たずに電話してみた。

「あります。届いていますよ。高校生が届けてくれました。」警察の人の明るい声が電話器に響きわたつた。

採光

天使になれなくて…(7)

名古屋大学付属病院 江崎 みちる

シズちゃんの退院日が決まった。「今度は大丈夫？」

「わかんない。すぐ戻ってくるかもよ。」

少し照れくさそうに微笑む横顔は、どこにでもいるごく普通のあどけない中学生の顔である。

十一月に精神科へ移ったとき、私が最も警戒した患者がシズちゃんだった。その頃彼女は、保護室に入れられていた。保護室とは、患者の不穏・多動などの症状が強く、自己や他者を傷つける危険性が高い場合などに患者を収容する、二重施錠の独房のことである。シズちゃんは夜中に冷蔵庫の果物を盗もうとしたところを看護婦に見咎められ、看護婦に暴力をふるい大暴れしたのだった。病名は「神経性食思不振症」いわゆる拒食症。一時は体重が三十キロをきり、かなりシビアな状況だったらしいが、その後反動による過食期に入り、菓子菓子五つを一気に食べ

ズちゃんは、最も愛おしい患者となっていた。「小さい頃から、お父さんとお母さんが喧嘩ばかりしてたの。毎日がすごく苦痛だった。」

「お母さんは、お姉ちゃんばかり可愛がるの。私は余計者みたい。」

そんな痛みも、少しづつ話せるようになってきた。しかし家族、特に母親と接触すると必ず彼女は荒れるのだった。単期外泊では過食と嘔吐を繰り返す。母親と外出に出た後一人で逃げるように帰ってきた彼女は、「菜の人混みの中で、ばばあに無茶苦茶蹴り入れたった。すげえむかついた。」などと声を荒立てて見せたこともあった。そんな日の夜は決まって不穏になり、消灯過ぎても部屋に入らず詰め所のドアを蹴ったり叩いたりして食物を強請にきた。根負けし、みかんを渡したこともあったし、朝方までとことんつきあって何とか布団に入れたこともあった。そして十二月、いよいよ退院が試される一週間の長期外泊となつたのである。

やっぱり退院したい。セーラー服着て、学校へ行きたいよ。」少し怯えている彼女を励まして、まるで幼子を独り旅に出すような気分を送り出した。彼女のいない一週間は、さすがに病棟も静かだった。二回ほど「いらつく。暴れちゃいそう。」と病棟に電話をかけてきた。その度に、「イライラ止めの薬を飲んで、少し外の空気吸っておいで。ダメなら病棟までおいで。話聞いてあげるから。」と励ました。一週間後、彼女はその瞳に明るさと自信を増やし、帰棟した。「私、普通の女の子になれるのかな。」



「何があったって、シズちゃんはシズちゃんだよ。可愛い女の子だよ。」そう言いながら私は思わず彼女をぎゅっと抱きしめたくなるような衝動にかられた。抱きしめるかわりに「大好きだよ。」と声になると、あどけなくはにかんだ。進級が出来たら、もうじき中二の春が彼女にやってくる。

学者もどきのつばき(7)

C博士のこと

山形大学医学部教授 仙道 富士郎

癌がわが国の死因の一位になつてから、かなりの日時が過ぎ去つた。癌の問題に直接携わる医療関係者に取っただけでなく、癌の告知の問題も含めて国民全体にとつて社会問題としての色合いが濃い。癌研究の片隅で生きてきた一人として言えることは、「癌イコール死」という概念は少しづつではあるが、変わりつつあると言う事実である。膵臓、肝臓などを除く消化器の癌であれば、早期に発見されれば、手術摘出で完全に治癒するケースも少なくない。しかし、これらの癌の診断、治療技術の進歩は、医学以外の自然科学や臨床医療技術の進歩によるもので、小生などもそれに含まれる基礎医学分野の癌研究者が癌の治療に寄与してきたことはごく少ない。癌の基礎研究は生命現象の謎は次々に説いて見せたが、癌の本質にはまだ到達していない。

博士の研究は数少ない癌の治療へと結びついた研究である。彼の研究の発想の原点は、民間療法を見直すことの中にあつた。昔からの言い伝えで、癌に効くと言われてきた、茸や海産物などを集めては、種々の成分を抽出し、ネズミの癌を治療できないか十年以上を費やした。そして彼はとうとう一つの癌の治療薬に到達した。現在では臨床的にも既に使用されているその薬の薬理作用は、多くのいわゆる抗癌剤とは根本的に異なる。よく抗癌剤の投与により、髪の毛が抜けたりする副作用のことを耳にしたことがあると思うが、これは抗癌剤が癌細胞だけでなく、正常な細胞も破壊してしまふからである。C博士は、白血

病などごく少数の癌を除いては癌細胞だけを破壊する抗癌剤はまだなく、他の抗癌剤は毒薬であると断ずる。これまでは抗癌剤は、癌の大きさを縮小させる

効果でその使用を認可されていたが、癌が少しづつ小さいながらも、副作用による想像を絶する苦しみを受け、しかも延命もしないというのであれば(事実、このような場合がほとんどである)、C博士に毒薬といわれても仕方あるまい。博士の発見された薬は、そもそも私たちの身体の中に備わっている癌と戦う抵抗力を強めてやることによつて癌を治療しようとするものである。だから抵抗力が癌に完全に負けてしまつて、大きな癌が出来てしまつた状態ではこの薬は有効ではなく、まず外科的に摘出できる癌はすべて摘出し、残った癌細胞を抵抗力で治してしまおうという発想である。

C博士が癌、それもかなり進行した食道癌に罹患している事が判明したのが、二年半前である。「仙道さん、食道癌になつてしまったよ。今年には講義に行けないから、日君を代わりにやるから。彼の方が私よりも講義がうまいと思うよ。」いつもの明るいお声からは、とても癌を告知された人とは思えなかつた。彼は主治医の強い勧めも断つて、

彼が毒薬と呼ぶ副作用の強い抗癌剤の使用を拒否し、放射線治療、外科手術を受け、その後自分の発見したその薬の投与を受けた。癌は器官にまで浸潤し、リンパ節転移もあつたのに、手術後二年半経過した今もC博士はすごく元気で、肌の色艶もよく、先日学生の講義にお見えになつたばかりである。小生はC博士の発見した癌の薬の宣伝をするためにこの文章を書いていくのではない。事実、それ程効果を示さない場合も多いと聞く(現在認可されている投与条件が問題ではあるのだが)。C博士が癌を克服できたその根底には、彼の癌をも受容する彼のおおらかさと、自分の見つけた薬は有効であると信ずる心があつたように思う。自然科学者がおかしなことをいふとお思いの方もあろうが、精神が肉体の機能に与える影響について、最近自然科学的に、次々に明らかになってきているのである。他の人がC博士と同じように癌の告知を受け、同じ様な治療を受けたとしても、必ずしも博士と同じ様な経過をたどるとは私にはどうしても考えられないのである。

そんな癌基礎研究の中で、C

AHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEAR

AHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEAR

あけましておめでとう
ございます。
 昨年は、子供達との生活を
お支え、又は、お守り戴きま
して心より感謝申し上げ
ます。日々成長を遂げてい
る子供達に添えるよう
一年過ごしたいと思
います。鈴木由紀子

新年あけまして
おめでとうござい
ます。
 昨年もあなたからご支援も
いただいたことありがとうございます。
 子供も厚く共に暖か
いご支援を心にとり
たいと思っております。
 よき年であらうように
お祈り致します。
 鎌田洋子

AHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEAR

あけましておめでとう
ございます。
 10年目を迎える今年。
 皆さまのご支援にお応
えできるよう働き
続けたいと思います。
 倉沢

光の子どもの
家にいる
犬は
ころ



あけまして
おめでとうござい
ます。
 昨年もたくさんの方に
お祈りいただきありがとうございました。
 今年も子どもたちと共に
歩む者でありたいと
願っています。
 池田祐子

あけまして
おめでとうござい
ます。昨年はお世話
になりました。今年も子
供達と共に頑張ってい
きたいと思います。
 中村

今年
おめでとう



かこじらない
かわいそう

め

あ

で

と

う

今年の
あしあし

あけまして
おめでとうござい
ます。
 昨年もたくさんの方
の助けをありがとうございました。
 10年目。今年も課題は
たくさんありますが、
今年うちで克服
しようと思っております。

あけましておめでとう
ございます。
 子どもたちも、中高生が
主体となり、来春からは
全員が学童以上となります。
 いろいろなことが自然に
おぼろげと暮らせる「家」
であってほしいと願
っています。竹本

AHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEAR

あけまして
おめでとう
あしあし



ぼくらの
あしあし



あし
あし

あし
あし



新年あけまして
おめでとうござい
ます。
 みな様の心温かいお支
えがいただけますように
がんばります。今年も
光の子どもの家をお
支えください。
 穴水祐子

あけましておめでとう
ございます。
 新年一年も 神様から与え
られた一日一日を大切に、精一杯
子どもたちと共に元気に
過ごしたいと思います。
 今後とも宜しくご指導下
さいませ。お願いいたします。
 この一年も 豊かな年であ
らうように祈ります。
 田中郁夫

AHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEARAHAPPYNEWYEAR

虹の国から

子どもたちに贈るクリスマスメッセージから

将士へ

何も分らない保母の許で、不安ととまどいの日々を過ごさせてしまったけれど、今ではだいぶ長男らしくなってきました。

いつも私は将士の力を必要としています。我慢や辛抱を強いられる時もあるでしょう。それは、将士の力が必要だからです。

神さま、どうか将士が力の出し惜しみをしません様に。そして、繊細で壊れやすい心をいやし、自分を上手に表現できるようにして下さい。神さま、学級委員で、剣道で、陸上で、絵画でいろいろな頑張れる強さを持った将士と出会わせて下さりありがとうございます。由紀子

加津子へ

いろいろ助けてくれてありがとうございます。たくさんのお面で助けられたことを神さまはご存知ですね。反対に、人を傷つけたことも多くありました。加津子、言葉はナイフです。使い方によって、幸せな気持ちになったり、人を殺したりします。だからちゃんと使おう。

神さま、加津子が自分の言葉に出来るだけ責任を持てるように成長させて下さい。そのために私をお用い下さいますように。まり子

悟へ

悟の好きなザアカイはイエスを見るために走って先回りして木に登りました。その必死さはすごいと思います。マタイは収税所の前でどれほど長い間座り続けていたのでしょうか。そのマタイはイエスの呼びかけに対して、立ち上がって、そして従いました。放蕩息子には優しい父の元へ帰りました。空腹に耐えられず帰ったのでしょうか。自分に立ち返り、ハッと気づいて方向を変えたのだと思います。神さま、悟が必死になること、立ち上がることを、そして方向を定めていく年にして下さい。

信恵

原田家日記

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

今年は大年。三年前の三月、今は小五の擽也が欲しいとねだった仔犬がやってきました。継続する力が不足していた擽也の情緒を豊かに培うという目的を言い訳にして、飼うことを許されたのです。

はじめの頃は、ころころ太っていたので擽也がコロと名付けましたが、今は凛々しく育った大型の秋田犬で、擽也は、「ねえ、コロじゃかわいそうだよ、もっと立派な名前に変えようよ」といいますが、コロの方は、コロでなければ通じません。

その日からコロに散歩とご飯をあげることが擽也の仕事になりました。小さい間は問題はありませんでした、大きくなって、今は三五kgもありますので、一年になる前に三年生の擽也はコロが走ると引きずられるようになってしまい、大人と一緒に散歩をします。立派な賢い秋田犬ですから躰をしないとつたいいと言われましたが、ほとんどそれらしいこともありません。予防注射などの時に、擽也と一緒にいやがるコロを診察台に載せるのには冬でも大汗をかいてしまいます。人間でも大きくなってからの躰や教育などの習慣化は難しいことがこんな時に思い知らされます。

昨年か今年にかけて、光の子どもの家の駐輪場から自転車が発見された。池田保母の二五〇CCのバイクが盗まれるという事件が頻発しました。警察に届けてもそう効果がありませんでした。

そんなときに、桶川市の向後さんが駐輪場の側に立派なコロの家を造ってくださいました。それ以来、コロは番犬の役を引き受けて、盗難事件は一度も発生していません。

当初の言い訳の忍耐と情緒の養いの方は、関わる大人のいい加減さであり効果がありませんが、擽也の姓を戴き「前杜コロ」と書かれた動物病院の診察券は擽也の宝物になっています。石毛 照子

光の中で

佐藤家

あけましておめでとうございます。これまでのお励ましに感謝しております。今年もよろしくお願い致します。

早いもので、ここでの子どもたちとの生活も半年が過ぎ、無我夢中での関わりも、少しづつ自分なりの形ができてきたように感じています。全てのことが初めての〜という事で、緊張や不安の連続で、そんな思いが子どもたちにも伝わり、表情を曇らせてしまうことや試されることがしばしばでした。

小学生の一志君は、表現力に少し欠けるところがあるものの、体をすりつけてくるなど甘え上手で、みんなから可愛がられています。些細なことで、「ぼくなんかいいやいんだらう」と、ドギツとする言葉に慌てて宥めすかしに大わらわになってしまったり。中学生の兄弟からは、わざと悪ぶって、言葉の揚げ足とって茶化されて、もみくちゃにされ、あげくには度を過ぎてしまいい険悪な関係に落ち込んでしまうのがパターンになってしまいました。

学生の頃、言葉に対して強い不信があり、自分の思いや意見などを言葉で表現する事が的確に出来ずに、偽りの飾り付けをしている自分が許せなくて、自己嫌悪に落ち込んだことがありました。

自分の愚かさは何度となく苛立ってしまい、收拾がつかなくなってしまふのです。そんな課題の一つも解決もしないまま、ここにきて子どもたちに関わってしまっています。

そんな繰り返しの関わりを重ねるうちに、いつの間にか子どもたちとの関係も落ちついてきていました。一通りのテストは終わつたようです。サッカーに興ずる一志君、兄の逸郎は高校受験に向かい、弟の滋君は優しい表情を湛えています。子どもたちのやさしさのメッセージをたくさん受けながら、言葉への信頼を積み上げて、一緒に成長する者でありたいと願って励みます。

白石 輝雄

子どもたちの季節

仙道家

新年明けましておめでとうございます。

子どもたちの季節は駆け足で過ぎ、おかげさまでみんなで新しい春を迎えました。この年も、みなさまの暖かいお励ましの中で、子どもたちともども成長してゆきたいと願っております。

ある朝の登園前、幼稚園バスを待ちながら詩美と幼稚園の誕生会へいく約束をしました。

年長組の教室に入ると、「詩美ちゃんのおかあさん来たよ！」と迎えてくれます。でも最近「詩美ちゃん、光の家なんでしょ」「お母さんいないでしょ」「お父さんとお母さん、別のところにいるんでしょ」という声も増えてきました。それも、詩美の目の前で遠慮なしに言われます。がんばっている両親と一緒に暮らせない詩美が、何か別の生き物のように言われているように胸に響きます。

誕生会が始まり、詩美は「大きくなったらサンタクロースになりたいです」と、マイクを持って発表できました。家の誕生会で頂いた山のようなお菓子を、私や他の子どもに分けてくれる詩美です。人を喜ばせるサンタのような暖かい人になれますようにと願います。

教室に戻ると、誕生者の親が子どもの小さい頃の話をする時間があります。その時、詩美の隣にいた子が、私を心配してか、「詩美ちゃんお母さんいないでしょ？知ってるの？」と聞きました。

「お母さんいるよ！小さい頃も知ってるよ」と答えました。詩美の小さい頃のかわいかった話を聞きながらニコニコの詩美。少し驚いた顔の子、ほっとする私。

そんなことがあっても、両親といつも一緒にいられなくても、ここでこんなに成長している詩美です。今日も、幼稚園バスに乗り、小さな社会へと出かけていきました。どんなふうか帰りを迎えようかな、と、たくさん心を熱くして待つのです。

五来 淑子

現場から

季節を彩る

竹下 由香

明けましておめでとうござい
ます。

おかげさまで子どもたち共々
新しい年を迎えることが出来ま
した。心から感謝申し上げます。
今年もよろしくお願ひ致します。

新しい佐藤家の再生のこの年
度は、逸郎にとっては受験生と
しての一年でもありません。新
しく逸郎の担当となった池田保
母と共に同じ家で生活する私た
ちも、彼の進学を見通した暮ら
しづくりにとりくんできました。

高校進学がほぼ義務教育化し
たような中で、親や家族と暮ら
すことさえ出来ないハンディを
背負った子どもたちには、特に
自力で社会へ出ていくという厳
しい条件もあって、そのための
準備を出来るだけ十分にしまし
ねばなりません。

その準備として高校生活は最
低限確保しなければなりません。
一般に、養護施設の子もた
ちは将来への夢に乏しく、施設
の生活から解放されたいとい

欲求もあって、進学を希望しな
い場合が多いと聞きます。

それでも光の子どもの家では、
中学を卒業した四人は皆高校へ
進学しました。それが力あって
と思えますが、この子どもた
ちは例外なく高校へは行くもの
だと考えているようです。その
ことは成果の一つでもあります。
しかし、高校へ行くことは決
して当たり前ではないという厳
しい現実も伝えなければなりま
せん。目標をしっかりと定め、そ
れに向かって進む努力をする
という訓練もしなければなりま
せん。何よりも、自分の意志で進
路を選んで、みんな確認して進
力を集めていくのです。

逸郎も、四月に施設長、主任
などの関係者と話し合い、高校
へ行かせて欲しいと、意志表示
しました。高校での生活、卒業
してどんな方向を目指すのかな
どを確認して受験への取り組み
をスタートしたのです。

学習については、学習担当の

指導員にお願いし、家では受験
生のいる家として、心を遣うな
どの雰囲気を作ってきました。

同じ家に高校生がいるので、
高校生活の様子や、具体的な学
校の選択に役立つような話題を
食卓などで提供してもらうなど
につとめました。

そんなある日、マンネリ化し
てきた逸郎の受験について、一
緒に暮らしている他の子どもた
ちにも理解を深めて出来る協力
を得られるように話を切り出す
と、張りつめた神経にさわった
のでしょうか。少し感情的になり、
「もう受験なんかしたくない！
ここを出ていきたい。」という
話になってしまいました。

私たちの彼への思いが空回り
してしまいました。みんなの前
での意志表示でもあったので、
これを機会に何とかもう一度体
勢を立て直したいと考えて、少
し日をおいて話をしました。

ここから出ていきたいければ、
事情があり困難もあるが、家族
の許へ帰ってそこから進学する
方法や、本当に高校へ行かない
のだったらそのような協力の仕
方がある事を伝え、逸郎が決め

るように話をしました。
数日後、彼は私たちへ手紙を
書いて持ってきました。

それには、ここからの進学の
意志は変わらないこと、励まし
がプレッシャーになってしま
うことが多いこと、自分できちん
とするから心配しないで欲しい
ことが書いてありました。

それは私たちの願ひでもあり
全面的に受け入れました。
十月末になり、私たちに伝え
られていた学校とは違う志望校
が学校に伝えられ、獲得してい
る学力も私たちの想像よりもは
るかに低いものであることなど
が三者面談で判明しました。

再度彼の学習や生活の体勢を
話し合せて作りなおし、家族の
協力も要請しながら、受験とい
う厳しい季節を乗り越えるため
にとり組み直してきているので
す。

任せることと放任、信頼と無
関心などの違いを峻別しながら、
微妙な思春期の子ども心の動
きなどと干渉している状況への
困難な関わりを逃げないで、逸
郎の現実と彼と共に向き合っ
ていこうと思っています。

養護メモ 47

家族

その一

菅原 哲男

養護施設光の子どもの家は、
家庭に何らかの事情があつて、
家族と共に暮らすことの出来な
い子どもたちが安心して生活し
よりよく発達していくことを願っ
て建てられた。

子どもたちが失った最も切実
なものは家庭的な暮らしの場と
家族のような関係であった。

何よりもまずその失った場面
や関係をこそ保障することが養
護施設の第一義にしなければな
らない責務であると考えら
れたが、養護施設という限ら
れた状況の中で、家庭である家
族関係に限りなく近い生活場
と関係をつくっていくことを第
一義として取り組むことになる。
さて、家庭とか家族とか言っ
ても個々人のそれぞれの経験が
概念を形成するのである。

大人である子どもでもあると
に問わず光の子どもの家で関
わり合う者のそれぞれの家族観
や家庭へのイメージがある程度
共通のものにしなければ第一義

の取り組みがまず混乱する。

さて、子どもの養育について
家庭や家族をおいては語れない。
その中でも母親の役割や影響力
は計り知れない。

養護施設は男が一人も居なく
ても一定程度成り立つが、女が
一人も居なくては成り立たない
と常々言ってきた。

人類学者河合雅雄は、ヒトの
歴史は五百万年に過ぎないが、
母親の歴史は哺乳動物始まって
以来、つまり2億年である、と
いう。

ところで、一般に家庭に母親
の姿が希少になって久しい。
高度経済成長期から企業は家
庭から女性をからめとって労働
力の安価な安全弁としてきたが、
それに対して女性の側も地位の
向上とか解放とかと言いつつも、
家事労働の手を変えてベルトコ
ンベアにしがみつき、育児労働
を保育園に押しつけて工場の事
務部門などを補完してきた。

一昨年の読売新聞の特集「食

は、冷凍食品、インスタント食
品、ファーストフードなどの第
一次産業を除く食品産業は国家
予算に迫る膨大な市場となつて
いることを報じ、同じ頃毎日新
聞の同じ様な企画の記事は、化
学調味料の生産は漸増して、
自然食品にこだわってきた東京
の中華料理店に化学調味料が取
り入れられてしまったことを取
り上げていた。

女性の自立や解放のひとつの
方向性として家事労働や育児勞
働のあるべき評価を打ち取る
という試みはほとんどなかった。
しかし、企業は皮肉にも家事勞
働の一部である食生活の商品化
によって国家予算に等しい経済
評価を付与して見せたので
ある。その一方で多くの人間の
健康を危険にさらしながら。

マイホーム主義だのニューファ
ミリイだのとマスコミは言い立
てて、企業は家庭そのものまで
を商品化してきたといえる。

乳幼児の受難の時代が喧伝さ
れた社会の動きに符合して、一
九六〇年代からの十数年、養護
施設は幼児で溢れたのである。
母親が家庭から工場や企業に

かすびいた頃から子ども問題は
は急激に変化し始めていること
は、母親の養育に占める役割や
影響力の計り知れなさを暗示し
ているとはいえないだろうか。

養護施設光の子どもの家では、
母親と子どもとの関係に擬して、
養育の基本に一人の担当者・
多くは保母である・が五名以
内の子どもを担当する責任担
当制を採っている。

子どもは母親に代わる保母と
の対一の関係の中でより濃密
な人間関係を経験し深め、かな
り徹底した依頼や甘えの受容を
生まれて初めて経験する。子ど
もの依頼、甘えの受容の累積が
信頼関係を醸成していく。徹底
的な依頼や甘えの受容によって
つくられる信頼関係を基盤にし
て子どもは初めて、それ以外の
関係へと挑戦し、外の世界へ冒
険の旅を試みる事ができるよ
うになっていくのである。

家族の崩壊過程によって基本
的な人間関係への不信を先に経
験した不幸はあるが、「信頼と
不信はバランスをとって両方経
験することが必要である」とエ
リクソンは言っている。

日誌抄

十月一日
十一月末日まで

十月三日 都立養護施設宇佐見児童学園より三上保母実習。

十三日 光の子どもの家後援会赤十字奉仕団との共催の草取りご奉仕。なかなか追いつかない園庭の雑草がきれいに取られてサッパリ。ありがとう。

○大利根愛の基金より美味しいお米を。ありがとう。

○篠塚俊雄氏より励ましが。

十四日 大利根剣友会木場氏より小手を頂く。ありがとう。

十六日 坂田民次氏よりお米、じゃがいもをどっさり。感謝。

十七日 加須市石井氏より座布団をいただく。昨年に続いて。

二三日 田代幸恵氏のご招待で手話劇を。N.T.Tのご招待で人形劇を。ステキな一夕。

二五日 栗橋町竹林商店より美味しい漬け物とお励ましを。

○東大宮教会菊池達氏より洗剤をたくさん。ありがとう。

○久喜市パール本店より玩具などをたくさん。ありがとう。

二九日 前理事小林義雄氏より乗用車ギヤランシグマを頂く。

これからの家庭訪問などに前
にありがたい援軍。感謝。

三〇日 東京田中博正氏よりお菓子などをたくさん。感謝。

三一日 オールドドッグセンター、アップルクラブ、動物保護協会が共催のドッグショーなど。

十一月一日 江森ヘヤーサロンより調髪のご奉仕に。若いご夫婦とお母さまとで。感謝。

○加須市の梅沢三保氏より新米をどっさり。空前の凶作に不況感が干渉してお米屋さんにもがけないときに。感謝。

二日 これも開設以来熱烈ご支援の栗原忠氏よりいつものお煎餅がどっさり。ご馳走様。

三日 第九回感謝の集い。よく晴れた暖かい秋の日差しの中で日頃お世話の地元の関係者や熱烈ご支援の方々、元職員、職員のご家族などが集い、子どもたちの暮らしぶりを子どもにも尋ねたり、出合いを楽しんだり、ご無沙汰の関係の回復をゆつたりした表情で。沢田さんのオカリナが快晴の空気を震わせ、飯田さんのアルトサクスが和みに彩りを添え、武蔵暴れ太鼓の響きが天

空を駆けめぐる一日。
八日 生活の乱れが目立つ高校生のための自立援助チームの話し合い。もう目の前に迫っている卒業から社会人への意識を獲得するために。

十二日 子どもと一緒にここで暮らしていて、三年前にフイと居なくなってしまう大阪兄妹の母から突然電話。子どもに会いたい。生きているのが辛い。などの訴え。

十七日 江差の祖母宅に帰ったが間もなく母が家を出をしてしまい祖母と暮らしている山下兄妹の後保護や大阪兄妹の母の消息を確認するための家庭訪問を北海道に実施。

二四日 女子聖学院CCFより、毎年のお励まし。感謝。

二七日 遠く静岡まで出かけて採ってきた樅の木の花、アドヴェントクランツづくり。子どもたちに気づかれないように。そっと、そっと。

二八日 第一アドヴェント。礼拝と楽しい会食。保母さんが作ってくれたクッキーは一つだけ。来週は二つだ。(くら)

反射光

明けましておめでとうございませす☆最初に願ったようにではありませんでしたが、思いを超えた多くの皆様のお励まし、お支えでもう十年目の春を迎えます☆並々ならぬご支援に心から感謝申し上げます。隠れた働きこそよくご存知の神が幾重にも祝福されますよう祈ります☆年が改まってもこの国で暮らす問題は消えませんが、☆解散が言われる国会に養護施設の名称変更の法案が提出されているそうです☆養護施設から児童ホームとかに変わるそうですが、内容の変更は殆どないそうです☆保母指導員一名に六名の子どものという職員定数など二四時間勤務前提の無茶なものが未だに通用し、一方で週四十時間から年千八百時間労働を実現しると迫られます☆当然誰もいない建物で子どもたちが暮らすことになり、弱い者に重いものを持たせる入所以前とよく似た生活の風景に戻るのでしょうか☆名称よりは内実の変更こそが待たれます☆よりよい発達保障のために励みます。乞うご支援！(哲)